

✈ 福智町「少年の翼」事業

2泊3日で中城村と交流した福智の子どもたち、平和と琉球文化を学んだ。中城から那覇市までは車でおよそ1時間。町章付きの赤い帽子が、首里城に似合う。



↓世界遺産、首里城から眼下の景色を望む。



↓中城城址を見学、これも世界遺産。



福智の翼、美ら島へ。

「城」の付く名前が縁で絆を深めてきた旧方城町と中城村。子どもたちが交互に訪問し交流する事業「少年の翼」の歴史は13年にもおよぶ。そして今年、その翼は福智町に受け継がれた。8月19日、福智町内4校の5・6年生23人が福岡を発った。空路で沖縄に降り立ち、中城村に入る。初日から村あげでの歓迎を受け、現地の子どもたちと交流。心の距離は一気に近づいた。翌日は、中城子ども会と沖縄の名所巡り。最終日の21日は、大戦の激戦地跡に戦争の悲痛を肌で学んだ。自然豊かな中城村でのホームステイを終え、帰途についた子どもたちの胸は、中城村への感謝と平和の尊さ、そして、故郷への愛情でいっぱいだった。

↓福岡の「慰霊の塔」に黙とうをささげる。



↓美ら海水族館ではジンベイザメに出会った。



おかげさまで、これまで実施した集会には多くのかたにご参加をいただき、いろんなご意見や思いを頂戴した。今回のタウンミーティングの目的は、まちづくりに対するわたしの考えや方向性を町民のみなさんにお伝えし、ご理解いただく中で、少しでも地域の実態や思いを把握できればということにあった。また、ひざを交えて話し合いをすることによって、町民のみなさんと行政との一体感が創出できるのではとの願いもあった。住民と行政が、あらゆる機会をとらえて、双方向の交流をしなければ、真のまちづくりは不可能だと思っている。とりわけ、三町が合併して誕生した福智町にとって、欠くことのできない必要条件だと言ってもいいのではないだろうか。そうした意味で、タウンミーティングが果たす役割は、決して小さいものではないんだと、自らに言い聞かせながら各集會に臨んでいる。▼思いがけず、おほめの言葉をいただいたり、わたしの人生訓（5月号の広報紙に掲載された）を引き合いに出して、激励をいただくこともある。そんな時は、本当にうれしく思うと同時に、さらに頑張ろうという気持ちになり、ささやかながら自己満足に浸る一瞬でもある。これからも、心をこめて地域を訪ね、お互いの琴線が共鳴できればと思っている。

浦田 弘二



▼町内の各地域に出向いてのタウンミーティングも、残り16地区となった。